

「原子力基盤クロスオーバー研究の展開
について(案)」に寄せられた
国民からの御意見

平成 1 0 年 3 月
原子力委員会
基盤技術推進専門部会

はじめに

原子力委員会基盤技術推進専門部会では、平成 10 年 2 月 3 日(火)に開催した第 25 回基盤技術推進専門部会において、基盤技術推進専門部会報告書案「原子力基盤クロスオーバー研究の展開について(案)」を同年 2 月 6 日(金)から 3 月 9 日(月)までの間、国民の意見を聞くことを決定し、所要の公開の手続きを行った。

その結果、期日までに 3 名の方から計 8 件の意見が寄せられた。

本資料は、その意見をそのまま複写したものである。なお、各意見の下に括弧書きしているものは、事務局が整理のために付けたものである。

(備考)

本意見に添付されているドイツの事例は、意見として 800 字を越えるため割愛致しました。

氏名 平田 孝太郎

(年齢 67才)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

経済力基盤	つにスオー	バー研究は	初ウツ造の	至遇はさめ
た由、我々	国民が知る	異子良の秘	な内容は、	

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

金融の健全性、信頼性、堅固性の向上とあり	おまが、戦
是、国民が主役になる具体的な効果はとんた	とが天は
をしようか	

氏名 和田 清雄

(年齡 67)

(要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

二城の年度 送は使印工 三の教員各	の予算額額 れ二二三の は？	は13億円 が研究費	余は二九一 億が五、三	うな研究費 と五三が
-------------------------	----------------------	---------------	----------------	---------------

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

[illegible]

平田行雄

67

基礎技術の進歩	生産の効率化	専門技術者の育成	環境への配慮	一人ひとりの能力向上
1. 基礎技術の進歩	2. 生産の効率化	3. 専門技術者の育成	4. 環境への配慮	5. 一人ひとりの能力向上

[illegible]

氏 名	五十嵐 康人	(年齢 40歳)
-----	--------	----------

(概要記入欄)

リスク管理技術の研究をクロスオーバー研究の「今後推進すべき研究テーマ」の中に加えて、幅広い研究体制と議論を基にして、取り組むべきである。

(意見記入欄)

今回の「原子力基盤クロスオーバー研究の展開について(案)」を拝見して不思議に感じたのは、第3期に推進すべき研究テーマの中に、リスク管理技術の研究が含まれていないことです。先般の国内での小規模な事故においても、適切なリスク管理がおこなわれなかったため、いたずらに事態が混乱しました。原子力施設事故に限らず、我が国における緊急事態への対処は、全般的に、諸外国に比べて立ち後れているように思われます。例えば、阪神淡路大震災の際も、現場情報の収集と指揮系統の不在のために、本来、助かってもおかしくない人命が失われたように考えます。我が国での緊急事態に対する一般的な反応は、ある意味で情緒的で、個人の責任感に帰されることが多いのですが、本質的には、システムチックな取り組みがないことに原因があると考えます。これまでのクロスオーバー研究でも、施設事故などを想定し、種々のモデル開発などが行われてきたようですが、実際の緊急時において本当に機能し得るのか、疑問がもたれます。例えば、これらモデルは、本来的には同一の計算機プラットフォーム上で、適切なインターフェースを介して、データの授受が可能であることが要件だと思われませんが、現状では、こうした努力は行われていないのではないのでしょうか。したがって、社会的、経済的にも妥当であるリスク管理技術の系統的研究が、社会科学まで視野に含めて必要だと思われます。すでに、ヨーロッパにおいては、チェルノブイリ事故の教訓を汲んで、最新の計算機技術を利用して緊急時対応のシステムが組まれています。参考までにドイツの事例を別に添付いたします。我が国においても、リスク管理技術の研究を広く諸研究機関などの連携により押し進め、今後急速に発展するだろう東アジアでの、原子力防災に備え、また、地震、火山、津波など大規模自然災害についても社会対応能力を育てることが重要だと思われます。

(備考)

本意見に添付されているドイツの事例は、意見として800字を超えるため割愛致しました。

